

2011.08月



ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
 今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
 ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

1. 第35回山谷夏祭り
2. 認知症サポーター100万人キャラバン養成講座
3. 生活保護行政の課題

## ♪ 第35回山谷夏祭り ♪



8月20日(土)、台東区玉姫公園にて第35回山谷夏祭りを開催しました。今年はず年と同様酷暑が続いていましたが、夏祭りの前々日から降り出した雨の為、夏祭り当日は10月初旬並みの気温となり、たくさんの方が夏祭りに参加されました。夏祭りは当初2日間の予定でしたが、2日目は雨が降ってしまい、中止となりました。午後4時半より会場は高野山別院の僧侶の読経に包まれました。何らかの事情があつて故郷から離れ、ここ山谷で働いて暮らし、そして家族のもとに戻る事なく亡くなった方々を供養するものです。今年3月11日の東北大地震で亡くなった方々への供養もありました。山谷で暮らす方々の中には東北出身の方が多くいらっしゃいます。夏祭りに参加された方々の何人もが、懐かしい故郷が地震や津波で壊されていくのをテレビで見て「心が押しつぶされそうだった。」とおっしゃっていました。

焼香が終わった方はまず無料のカレーの炊き出しでお腹を満たし、そして公園いっぱい広がる夜店や、NPO訪問看護ステーションの皆さんによる健康相談や、床屋ボランティアなどを利用されていました。そうしているうちに舞台ではハモニカバンドや東京善意銀行共の会の歌あり、踊りあり、マジックありの楽しい演芸が始まりました。参加されている方々はビール片手に思い思いの場所に陣取り、本当に楽しそうに見ていらっしゃいました。

久しぶりに友人や知り合いに会った人々が、そこかしこで「久しぶりだねエ、元気だったか?」「足がやっぱりね、、、」「ちゃんと歩いているか?」と嬉しそうに話している光景がたくさん見られました。

毎年、たくさんのボランティアの方々に支えられている山谷夏祭り。山谷に暮らす人々の高齢化が目立ち、その方々の生活も何らかの支援が必要となっています。困難な生活の中にも人々の触れ合いの場所である夏祭りがこれからも続いていけますように、と祈る一日でした。

(ヘルパーステーションふるさと・すみだ ケアマネージャー 伊藤桂子)

## ♪ 「認知症サポーター100万人キャラバン養成講座」♪



去る平成23年7月27日(水)、ふるさと下落合館において認知症サポーター講習が行われました。講師として大久保地域包括支援センター職員を招き、参加は「新宿サポートセンターふるさと」職員、非常勤職員、そして自立援助ホーム「ふるさと下落合館」の利用者7名、総勢14名で開催されました。

講習は「認知症とは何か?」から始まり、原因や症状、認知症予防、認知症の人への接し方等、時折ビデオを用いて講義するといった非常に理解しやすい内容でした。

今回の講習を通して感じた事は、認知症の人の見ている世界をそのまま感じ、知ることは難しい。しかし職員が原因や症状をきちんと理解すれば認知症の人への関わり方の不安が軽減され、それにより本人の安定安心にも繋がります。また言葉を掛ける際のニュアンスで認知症の人を傷つかせたり不安を煽ったりする事もあるが、本日のビデオによりその言葉掛けや表情が

情がいかに大切であるかが分かりました。ふるさとの会の職員ケア研修にもこのビデオを利用出来ると非常に参考になると感じました。

この講習をするにあたって、当初は「新宿サポートセンターふるさと」事務所内で職員だけで開催しようと考えていましたが、職員の中から「下落合館で開催したらどうか?」との意見があり話し合いの結果、今回は下落合館で開催する事になりました。

あえて下落合館で講習を開催しようと考えた目的は2点あります。1つ目は、イベント的なものとして捉え、下落合館の利用者にも参加してもらい大久保地域包括支援センター職員・「新宿サポートセンターふるさと」職員・夜勤職員と集い、一緒に作業(勉強)するといった場を設定することです。下落合館は開所して8ヶ月経ちました。今まで職員と利用者と一緒に作業をするといった事が無く、丁度イベントを考えていた矢先に地域包括支援センターから打診があり、いい機会だったのでイベントの一環として開催しました。2つ目は、下落合館の利用者が参加することで、認知症でない利用者が認知症の利用者の症状・感情(恐怖・困惑・狼狽等)を理解し、

認知症の利用者の言葉や理解しがたい行動に対して恐怖や攻撃的な言動が無くなるのを期待しつつ、更に何か困っている認知症の利用者がいれば、自然と手助けしてくれる雰囲気(互助機能)が生まれると非常に意義のある講習になると思いました。

今後は「新宿サポートセンターふるさと」が行なっている訪問事業利用の高齢者、地域住民、社会サービスの関係者が気軽に参加できるようなイベントを開催し、地域での互助機能を強化できるような働きかけをしていきたいと考えています。

(瀧澤 健一郎)

#### ♪ 生活保護行政の課題 ♪

8月20日、新宿区生活福祉課相談係の近藤藤磨氏を講師お迎えして職員研修を行いました。講師から見えた事や生活保護行政の現状と課題、今後の生活保護行政について詳細な資料を交えながらご説明いただきました。

筆者は、福祉事務所で働いているケースワーカー、支援員の方々とは仕事上やりとりすることは多いものの、実際どのような業務をし、組織を持っているのかは、「生の声」としては知らない部分が多く、興味深かったです。また、生活保護行政としての現状と今後の課題は、これからの社会保障制度の方向性を踏まえて、私たちが制度や行政とどのように連携していくべきかを知ることができました。

生活保護の現状として、高齢世帯については、生活を保障する制度が現行では生活保護以外にない、新宿区に住み続けてきた住民が困窮し相談するケースも多いそうです。また、若年層(稼働年齢層)の相談者が急激に増加し、全国から職を求め、知人を頼り新宿区に転居している近年の傾向を聞くと、日本の経済社会の基盤や雇用施策の脆弱さを実感します。そのような現状の中でどのような支援が求められて行くのかを考えさせられました。特にレジュメの中にあつた「被保護者に対して単に、経済的な自立を求めるのではなく、就労により、社会との関係性を回復していく基本理念の基に、就労支援も含めた、より細かく、手厚い支援をめざして行く方向性」の言葉にヒントがあるように思いました。

氏の講演の後に職員との質疑応答がありましたが、その中で「アフターケアの必要性」について指摘がありました。入口を作ったとしても、その後で被支援者の方たちをどのように見守り・ケアしていく政策・体制を作っていくのが一番肝要なのではないかとも考えました。

お忙しい中お時間を作ってお越しいただいた近藤氏に心より感謝を申し上げます。

(裴敏哲)

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail : [info@hurusatonokai.jp](mailto:info@hurusatonokai.jp)  
HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>